

平成 15 年 5 月 30 日  
表彰委員長  
松尾 友矩

## 平成 14 年度表彰について

平成 14 年度の表彰を平成 15 年度の定期総会において行うこととし、機関誌「臭気の研究」（平成 14 年 9 月号）掲載により会員から表彰候補者推薦募集を行った。推薦者の中から各賞選考部会における検討結果を受けて表彰委員会で審議し、以下のとおり各賞の候補者を決定した。（敬称略）

### 1. 功 勞 賞

功勞賞は、本会の会員であり、本会の発展に貢献若しくは臭気に関する分野において特に優れた功績を認められた個人に贈呈されるものである。

#### ○ 水嶋 清

前 北炭化成工業株式会社 最高顧問

（受賞理由）

平成 6 年以来 9 年間にわたり、当協会の理事として協会の発展に貢献し、またその間、功勞賞選考部会の委員として表彰者の選考業務に従事し合計 10 人の功勞賞受賞者の決定に参画したほか、協会の発足以来、セミナー、講習会、委員会など多くの場で、当協会の事業に講師及び委員として従事し、当協会の発展に大きく貢献した。

### 2. 学術賞

学術賞は、本会の会員であり、においに関する論文・著作等学術的研究成果が特に優れた個人に贈呈されるものである。

#### ○ 樋口隆哉 山口大学工学部社会建設工学科

（受賞理由）

平成 9 年以来、臭気の嗅覚測定法に関する研究、例えば測定時の諸因子と知覚強度との関係、三点比較式臭袋法によるデータ解析に関する研究、排水臭気臭の測定に関する研究が多く発表されているほか、最近は嗅覚測定法の精度管理に関する研究発表も多い。そしてこれらの研究発表は国内のみならず海外にも多く発表されている。更に、海浜香気に関する研究も数多くみられ、例えばその発生要因に関する研究、海浜香気に関する意識調査、海浜香気の世界の強度や動向など幅広い研究が行なわれており、アロマセラピーや化粧品関係の分野でも注目されている。

これらの実績は本会の学術賞に相応しい。

### 3. 技術賞

技術賞は、本会の正会員、公共会員および賛助会員である法人会員又はこれらに所

属する個人又はグループで、臭気に関する調査研究又は臭気対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる者等に贈呈されるもので次の3社に決定した。

(五十音順)

- 荏原実業株式会社 環境開発事業本部長 飯沢不二雄

(受賞理由)

ボエフリアクターによる液相脱臭技術

同社が開発されたボエフリアクターによる液相脱臭技術は、生物的汚水処理施設に腐食ペレットを充填したボエフリアクターを併設し、汚水の浄化を促進することにより悪臭防除を同時に処理する技術であり環境保全に好ましい技術である。また、現在180箇所の納入実績があり、脱臭対策に多大の貢献が認められるので本会技術賞として相応しい。

- 日本ガイシ株式会社 専務取締役エンジニアリング事業本部長 奥村欽一

(受賞理由)

悪臭を微生物作用により高度に処理する技術

同社が開発された技術は硫化水素、メチルメルカプタンなどの悪臭物質を分解する微生物に着目してバイオ技術により下水臭気を除去する新しい生物脱臭システムである。このシステムの特徴は、①脱臭微生物の固定化に優れた独自の担体の開発により、高速・高効率処理を可能にしたこと②各臭気成分の除去に適した微生物の住み分けを積極的に行い、高い除去性能を発揮する点である。平成4年の販売開始以来約80基の販売実績を有し本会技術賞に相応しい。

- 三菱電機株式会社 電力・産業システム事業所公共部長 中谷義昭

(受賞理由)

オゾン脱臭システムの開発および実用化

同社は、自社技術の応用による研究開発により湿式オゾン脱臭装置および更に高性能な乾式オゾン脱臭装置の開発、製品化を行った。湿式オゾン脱臭装置では薬液（次亜塩素酸ソーダ）とオゾンを併用することにより高性能を確立し、また、乾式オゾン脱臭装置は、コンパクトで、排オゾンは皆無であり、平成13年度環境省による性能調査でその優秀性が評価されている。両方とも下水およびし尿処理場への納入実績が多く本会技術賞に相応しい。